

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007

ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

FAX03-3261-5453

2016年10月31日（月）

第682号 本号3頁

自衛隊を南スーダンに送るな!!

いのちを守れ!! 青森集会

10月30日（日）13:30から青森駅前公園で、「戦争法廃止を求める青森県民ネットワーク」と「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の共催で、「自衛隊を南スーダンに送るな！いのちを守れ！青森集会」が開催されました。地元の方々も「寒い」という気温10度を下回る冷たい雨風の中、遠くは広島や香川など、全国から1250名が参加しました。

主催者挨拶した青森県九条の会共同代表の神田健策氏は、東北方面隊第9師団（青森市）の第5普通科連隊等が南スーダンに派遣され、11日にも戦争法にもとづく駆けつけ警護などの新任務付与の閣議決定を狙う安倍政権に厳しく抗議。そして、「南スーダンに派遣され、殺し殺されることが現実となる中で、すべての国民と自衛隊員の命が奪われることのないように、派遣に反対し、戦争法を廃止させよう」と訴えました。

次に、総がかり行動実行委員会の高田健氏が、「南スーダンは安定してが戦車を出している。戦闘状態だ」と南スーダンの危険な情勢を語り、に自衛隊が派遣され、殺し殺される時が到来しようとしている。市民と野党が共闘し、安倍政権を倒そう」と呼びかけました。

集会には民進党の升田世喜男衆院議員、日本共産党の高橋千鶴子衆院議員、社民党の上三武志県連代表、そして参院選で野党統一候補として当選した田名部匡代参院議員があいさつしました。高橋氏は国会での質問で安倍首相が「南スーダンは永田町よりも危険」と答弁したことを紹介し、「憲法9条をもつ国として誰も戦場に送らせない。自衛隊派遣を止めさせよう」と訴えました。また、田名部氏は「参院選で託された平和の願い。諦めることなく、戦争法廃止へ力をつくします」と決意を語りました。

さらに、自衛隊員の家族として北海道千歳市の平和子さん（仮名）が、戦争法を強行した安倍政権の横暴に対し、「日本人、自衛官の命をまるで将棋の駒のような扱いです。息子一人が無事であればいいとは思いません。すべての自衛隊員の命を守りたい」と語りました。また、小さな子どもを抱えてステージに上がった「安保関連法に反対するママの会@青森」のママたちは「派遣される自衛隊員、現地の少年兵など誰もがお母さんから生まれた大事な命です。武器を持たせて南スーダンに行かせない」と訴えました。

集会の最後には、「ラッセラー、ラッセラー、南スーダン派遣反対」等と、ねぶたばやしに合わせてコールしました。集会後、駅周辺をデモ行進し、市民に南スーダン派兵反対を訴えました。



憲法共同センター 防衛省に「新任務付与せず、南スーダンから撤退せよ」と要請

憲法共同センターが27日、防衛省に①自衛隊に「駆けつけ警護」など新任務は付与せず、南スーダンから自衛隊を撤退すること。②安保法制（戦争法）を廃止すること、の2項目で要請を行いました。要請には、全労連、自由法曹団、革新懇、全教、全商連、新婦人、平和委員会、民医連、等とともに、憲法会議からも2名が参加しました。

冒頭、「安保法制（戦争法）の発動を許すな 自衛隊に「駆けつけ警護」など新任務は付与せず、南スーダンからの徹底を求める署名」の団体署名、1467団体分を提出しました。その後、各団体から「南スーダンは内乱状態、PKO5原則に反する」「自衛隊員の命を守ってほしい」等と要請。これらの要請に対して、防衛省は「PKO5原則は守られている」「ジュバは比較的落ち着いている」「殺し殺されることはない」等と、稲田防衛相や安倍首相と同様な回答をしました。

衆院憲法審査会、10日に審議会開催を！

衆院憲法審査会は27日の幹事懇談会で、11月10日の審査会開催を決めました。現行憲法に対する見解を各党が意見表明することから再スタートすることとなりました。また、17日には、立憲主義などをテーマに審議することでも合意しました。審査会での実質的な議論は昨年6月以来、約1年5カ月ぶりとなります。

幹事懇には自民、民進、公明の各党のほか、オブザーバーとして日本維新の会、共産、社民の各党も出席しました。自民党筆頭中谷氏が「10日に審査会を開き、憲法の制定過程と70年を振り返って議論して欲しい」と発言。それに対して、民進党筆頭の武正氏が「事前の筆頭間協議では、審査会を2回行い、2回目のテーマは立憲主義も確認した。筆頭間で合意した内容がゆがめられている。二つをセットにして確認して欲しい」と発言しました。

共産党の赤嶺氏は「国民は憲法改定をもとめていない。憲法審査会は憲法改正を発議するためにつくったものであり、憲法審査会を動かすことには反対だ」と発言しました。

最後は、森会長のまとめで、10日は他の野党も協議のテーブルにつきやすい「憲法制定経緯と憲法公布70年を振り返って」をテーマに再開することとなりました。各会派代表者が10分ずつ意見表明し、それに対する自由討論を行うことも決まりました。

安倍首相 改憲の「発議案をまとめて」と促す！

安倍首相は26日、自民党憲法改正推進本部の安岡興治本部長と会い、衆参両院での改憲に向けた議論について、「政局から離れて、各党が自由闊達に議論をして発議案を国民に分かりやすい形でまとめてもらうことを期待したい」と述べました。

「発議案をまとめて」と、これまでの「改憲論議の推進を」から踏み込んだ発言です。改憲草案の審査権限を持つ憲法審査会での議論を促すもので、憲法99条の憲法尊重擁護義務に違反します。

戦争法の実体化をめざし、南スーダンでの国連PKOに派兵される自衛隊に対して、「駆けつけ警護」などの新任務付与を迫りつつ9条の明文改憲を狙う、危険な狙いを露骨に示すものです。

安岡氏は、野党時代に策定した自民党改憲草案を与野党協議のたたき台としない方針を説明し、安倍首相は「党に任せる」と理解を示し、「しっかりと格闘で意見を述べて議論する環境を整えてほしい」と語りました。

各地のとらきみ

埼玉 戦争法廃止のたたきをどう進めるか、シンポジウム開催

「安保関連法」の廃止を求める東埼玉連絡会は23日、久喜市で「どうなる日本、どうする私たち、世代を超えて」と題したシンポジウムを開催しました。シンポジウムは、戦争法の実体化や憲法改悪を阻止する運動をどう進めるか考えようと開かれたもので、約200人が参加しました。

シンポジウムに先立ち、聖学院大学石川裕一郎教授が「自民党改憲草案」について講演しました。その後のシンポジウムでは、各分野・世代の4人が発言。「安保関連法に反対するママの会@埼玉」の中野昌子さんは、奨学金や年金など身近な問題を話して、政治に関心を持ってもらえるよう工夫したと語りました。「戦争法はダメ！杉戸平和アクション」の石井信久氏は、街頭宣伝でも、中国や北朝鮮問題など市民の関心とかみあった訴えが必要と語りました。埼玉土建の戸田武治さんは、組合の平和学習の経験を語り、「若者は`きっかけ`が少ない。単純なきっかけでも学習に参加すれば『誰かに伝えたくなくなった』と思うようになる。おかしいものはおかしいと語れる場所や仲間が運動の発展に必要」と強調しました。

北海道 19日、命と人間らしさを取り戻そう「戦争をさせない総がかり行動」

19日、札幌市・大通公園で「戦争をさせない総がかり行動」が開かれました。北海道平和運動フォーラム・長田代表は「政府は自衛隊の南スーダンへの派遣を5カ月延長した。駆けつけ警護など新たな任務が付与され、訓練も始まっている。安倍首相は『戦闘ではなく衝突だ』と言い放っている。PKO5原則の大きな柱である、当事者間の停戦合意は崩壊しており、ただちに自衛隊を撤退すべきだ」と批判しました。

戦争をさせない北海道委員会呼びかけ人の結城洋一郎名誉教授は「南スーダンでは大戦争が勃発している。多くの市民や国連職員などが殺されているなかで、安倍首相や稲田防衛大臣は単なる衝突と言っている。安倍首相は国会においても『戦争についての定義がないので、私たちは衝突と表現している』と述べているが、無茶苦茶な話。こんな人の命令で自衛隊員が戦場に派遣されている。こんな人物は一刻も早く政権から更迭しなければならない。自衛官の命と人間らしさを取り戻すため協力し続けよう」と述べました。集会後は、札幌市内をデモ行進し、戦争法の廃止を訴えました。



神奈川 19日、茅ヶ崎市民連合として初めての宣伝行動

神奈川県茅ヶ崎市の「安保（戦争）法廃止、立憲主義回復、茅ヶ崎市民連合」は19日、イトーヨーカドー前で、同会発足後初めての宣伝行動が行われました。参加者がリレートークし、安倍政権の暴走を止める決意や、衆院神奈川15区での野党共闘の実現を訴えました。

同会の丸山仁事務局長は、参院選や新潟県知事選での野党共闘の発展を語り「野党が統一すれば勝てるのが全国で証明されつつある。15区でも野党統一候補を立て、自公の候補者に勝とう」と呼びかけました。元茅ヶ崎市議でメンバーの西山正子さんは、自身の戦争体験などを話し「戦争がいまだに世界で起こっていることを受け止め、反対してほしい。私は生きていくかぎり戦争反対を訴え続けます」と話しました。

通行中にカンパした女性は、「戦争法廃止や統一候補をつくるために市民が手をつなぐことは大事だと思います。皆さんの活動に期待しています」と話しました。

憲法公布70年 秋の憲法集会

日時) 11月3日 午後2時～ 場所) 在日韓国YMCA アジア青少年センター

講演) 栗田禎子 千葉大学教授 「混迷する南スーダン情勢と自衛隊の派兵」

石川健治さん 東京大学教授 「立憲主義の破壊と『戦後』の終わり」(仮題)

◇野党各党あいさつ ◇動画上映「沖縄のたたかい」

主催 解釈で憲法9条を壊すな!実行委員会